

次世代のがんプロフェッショナル養成プラン 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連携大学 名)	京都大学 (三重大学、滋賀医科大学、大阪医科薬科大学、京都薬科大学) 計5大学
事 業 名	高度化・多様化するがん医療を担う人材育成
事 業 責 任 者	京都大学大学院医学研究科教授 武藤学
事 業 の 概 要	
<p>がん免疫治療、ゲノム医療、CAR-T 療法などの登場により、がんの生存率は向上しているものの未だ満足できるものではない。また、がんの予防は未だに達成されていない。一方、わが国では超高齢化に伴い高齢のがん患者だけではなく、様々な合併症を有するがん患者にどのように治療を提供すべきかという課題に直面している。本事業では、わが国が抱える少子高齢化、大都市集中の人口動態など社会構造の変化などの様々な課題のなかで、高度化・多様化する医療を効率的かつ効果的に提供できる人材育成に取り組む。また、がん領域のみならず非がん領域の医療技術、さらには ICT や AI などの最先端の異分野との学際的連携が必須である現状を踏まえ本拠点連携大学が蓄積してきた教育、研究、診療に関わる人材、インフラ、そして海外の先進施設との連携を基礎に新たに顕在化してきた課題や社会のニーズに対応できる専門的医療人の育成に取り組み、社会に貢献する。</p>	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○本事業に対する目標が明確であり、各大学にそれぞれの強みを活かしたプログラム・コースが設定されている養成プランとなっている。テーマ①は緩和的放射線治療、長期的な終末期医療、病理診断医・医学物理師の育成を課題とし、テーマ②はがんゲノム情報を用いた個別化医療、マルチオミクスへの対応、テーマ③は免疫療法、CAR-T 療法など治療法に対する対応を目的としている。</p> <p>○がん医療において、高度化・多様化する医療を効率的かつ効果的に提供できる人材育成に取り組むことや、最先端の学際的人材育成などに関して、期待が持てる。</p> <p>○事業内容が、現状の医療にそってバランス良く推進される仕組みであり、成果をフォーラムやシンポジウムなどで、連携大学のみならず患者や市民にも普及させる試みは評価できる。また、自立的な事業の継続が可能である見込みに関しても、期待が持てる。</p> <p>○終末期医療や病理診断、医学物理士の育成など、本事業が求める領域に合致した育成に取り組んでおり、腫瘍腎臓病学やビッグデータ医科学分野などにおける優れた領域の強みを活かすことが期待される。</p> <p>○事業の成果としてふさわしいアウトカムが設定され、がん医療の均てん化に寄与すると考えられる。3つのテーマに関しても、正規課程とインテンシブコースが明記されており、わかりやすい。講義内容に関して、具体的で有用な内容となっており、優れた人材育成が期待できる。</p> <p>○各診療科・職種横断的な実施体制となっており、これまでの実績もあり、妥当な運営体制であり、インテンシブコースを利用して連携体制を強化するプランは、相互理解とともに専門職の総合力強化にも繋がるため、期待が持たれる。</p> <p>○初年度に具体的な内容と月別予定が計画されており、遂行に期待が持てる。</p> <p>○正規課程においてはテーマごとに 14, 7, 10 の各プログラムが設定されており、医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、医学物理士と多くの職種に対して、さまざまなコースが設定されており、内容も、遺伝子治療や創薬、小児がん、がんサバイバーや難治性がん疼痛やりハビリテーションまで、幅広く網羅されており、次世代の人材育成が期待される。特に大阪医科薬科大学のがん疼痛緩和のためのペインクリニック養成講座は非常にユニークであり期待ができる。インテン</p>	

シブコースは全部で4コースであるが、薬剤師養成について大学横断的なインテンシブコースが計画されており、その成果が期待される。

- テーマ③の目標で新規治療法への対応という目的があるが、新しい治療法を開発・臨床研究などの視点は少ない印象がある。
- がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成に関しては、放射線治療や痛みの治療に関する人材育成や対策について、より具体的な構想とともに記載が望まれる。
- 研究等における患者市民参画（PPI）の推進の視点が不明であり、PPIの観点から外部評価委員会に患者もしくは市民の立場からの評価が行われるのかが明らかではない。
- アウトカムに関して、放射線治療に関する人材や支援を記載されているが、がん疼痛緩和に対する評価指標の具体的な記載、がん医療そのものや医療機関に対する普及内容についての記載があればより望ましい。
- 5大学の連携においてもユニークな教育プログラムが作成されているが、連携大学同士の教育プログラムのシェアなどに関する記載が乏しいのでさらに具体的な連携内容について、記載されていると望ましい。
- 外部評価の実施年度についての記載が不明確であり、年度計画に関しては、毎年に関してより具体的な記載が望まれる。
- コースによっては、毎年1人またはそれ以下の設定があり、今後の充実が望まれる。